

助産師教育
滋賀医科大学の取り組みと課題について



臨床看護学講座 准教授 岡山 久代

近年、産婦人科医師不足から滋賀県でも産科施設の閉鎖が相次ぐといった問題が起こっています。加えて周産期医療に関するさまざまな社会問題を背景に、周産期を支える助産師へのニーズが高まっています。

本学では、大学の4年間の中で、選択制で助産師を養成していますが、助産師課程を選択した学生は、4年間で138単位を履修しなければなりませんので、カリキュラムはどうしても過密になっています。助産師学生は、3回生で助産の専門科目の授業と演習、4回生になると夏期休業をフル活用して24時間体制で実習に取り組んでいます。

助産師教育 滋賀医科大学の取り組みと 課題について

臨床看護学講座 准教授 岡山 久代



4年生の実習前の演習には3年生も参加する

4年制大学のメリットを生かした助産師教育

大学での助産師教育は課題の多い反面、助産師課程の選抜から卒業まで2年間で学べるというメリットもあります。

本学では、大学ならではの特性を生かすために、3回生と4回生のプチ・プリセプター制度（一人ひとりにマンツーマンで振り当てられる担当の先輩）を採用して、学年間の交流を積極的に行っています。1年以上の先輩は未来の自分をイメージするモデルになりやすく、また助産学実習に向けて知識や技術だけでなく、心の準備を行っていくことにも効果を発揮します。

助産学実習では、直接自分で介助して赤ちゃんを取り上げるのですから、学生と言えども大きな責任がかかってくるわけです。実習で想像と現実とのギャップからショックを受ける学生も多いため、3回生の夏にインターンシッ

難しい分娩実習先の確保

現在、県内で助産師課程を開設している教育機関は本学と、滋賀県立大学の2施設で、両校合わせても定員は1学年で16名（各校8名）です。もっと定員数を増やすことができればいいのですが、教える側の体制づくりがそう簡単ではないところに問題があります。

助産師養成の要望に応えるために、本学では助産3期生以降、定員を超えて養成し、現在は4回生（助産4期生）12名、3回生（助産5期生）12名となっています。講義は12名でも8名でも変わりませんが、保健師助産師

看護師学校養成所指定規則で助産師養成においては1年間に10例の分娩介助をしなければならぬと決められていることが大きな壁になります。

12名なら12例のお産が必要ですが、途中で帝王切開になったりするケースもあるので、その倍くらいは確保しておかなければなりません。出産数が少なくなっている中で、学生指導ができる助産師さんと、実習の受け入れ体制が整って、なおかつ必要な出産数がある施設を確保しようとすると、今の12名が限界です。

現在は、本学附属病院のほか長浜赤十字病院、市立長浜病院、公立高島総合病院、野洲病院、神野レディースクリニック、さらに県外の京都民医連中央病院や中部産婦人科にも協力をいただいています。

実習には本学の教職員ができるだけ立ち会うことにはしていますが、指導担当の助産師



さんと学生が介助する後ろで、学生を見守り困った時に手を貸す黒子のような役割に徹しています。

本学は地域に貢献する大学であることを掲げていますので、卒業する学生の半数くらいは滋賀に残って周産期を支えてほしいという思いがあります。実習先には「卒業後はぜひここで働きたい」という実習生が思えるような受け入れや指導が行われるようお願いしています。

卒業後、実習先の施設に入ってくれて、卒業生が就職したところに実習に行くということを積み重ねていきたいところです。

期待される多様な助産師の役割

地域で活動されている助産師さんは、思春期から健康教育に携わって、将来の健やかな母性を育むためにがんばってくださっています。お産もしにくい時代ですが、より子育てもしにくい時代なので、出産だけでなく、産後の育児支援も大切な仕事です。

そして、今の時代は、生むこと生まないこと、また子どもいらない人生を受け入れるといった、女性の中でいろいろな選択肢が出てきている時代です。助産の対象は出産する女性とその家族が中心になりますが、広く生涯を通じて女性の健康をサポートしていくことが、私たちの役割だと思います。思春期から更年期まで、あらゆるライフステージの女性の健康づくりに、助産師はその知識を生かすことができます。助産師として働いている人が、さらにスキルアップするためのコースなどが今後は増えてくると思います。

昨年、滋賀県で調査をしたところ、看護師として働いている方の中に、助産師になりた

いと思っておられる方が40数名おられますが、仕事を辞めることへの経済的な不安や大学編入は敷居が高いといった意識が強いことがわかりました。そういう方をどうフォローしていくか、情報の提供などにも大学が取り組んでいかなければならないと思っています。

本学では、実習でお世話になった助産師さんへのお礼と、地域への貢献という目的で、毎年1回助産学臨床指導研修会を開いています。最近のトピックスなどについての講義・演習を行って、人的交流を図り、情報交換を行っています。

今はとりあえず助産師の量の確保が先決ですが、これからは大学院での助産師教育という方向に時代が流れてきていますし、今後ますます高度な専門職として質が問われるようになりそうですので、質の向上にも取り組んでいかなければならないと思います。そして、滋賀の周産期医療に貢献できる優れた人材の育成に努めていきたいと考えています。

